



## 大雪に対応する呼びかけ

# 大雪の予報が出たとき

大雪による事故は、その多くが“防げる事故”です。

大雪に関する情報の多くは事前に出されるため、備えと対策が十分可能です。

気象庁などは、早いものでは2週間前から情報を発表します。

「大雪に関する早期天候情報」「早期注意情報(警報級の可能性)」「大雪に関する気象情報」「大雪に対する緊急発表」、それに「大雪注意報・警報」などです。

これらの情報を見たり聞いたりしたら、外出の自粛や予定の変更、備蓄や燃料の補充など、早めの備えを呼びかけましょう。

大雪や暴風雪の予想が出たら、なるべく外出を控え、屋内にとどまりましょう。

停電に備え、携帯電話の充電、懐中電灯や携帯ラジオの用意をしてください。

外出できなくなった時に備え、

食べ物や飲み物を3日分確保しておくとお安心です。

暖房器具の燃料もチェックし、

少ない場合は補充しておきましょう。

雪が積もる前に、屋根の雪下ろしで使う命綱と安全帯を用意しておいてください。

命綱を結びつける場所も確認しておきましょう。

周りに1人暮らしのお年寄りなど  
助けを必要とする人はいないでしょうか。  
雪が降る前に声をかけ、連絡手段などを確認してください。

### 【参考にしてください】

大雪が予想されるときや特に注意・警戒が必要なとき、  
気象庁や国土交通省などがさまざまな情報を発表します。

例えば…

### 【顕著な大雪に関する情報】

重大な災害が発生する可能性が高まり、一層の警戒が必要となるような  
短時間の大雪が見込まれる場合に発表されます。

現在、新潟県、富山県、石川県、福井県、福島県(会津地方)、山形県、滋賀県、  
兵庫県、京都府、広島県、岡山県、島根県、鳥取県で運用されています。

### 【大雪特別警報/暴風雪特別警報】

これまで発表されたことはありませんが、最大級の警戒を呼びかける情報です。  
記録的な大雪(府県程度の広がりを持って50年に一度の積雪深)となり、  
かつ、その後も警報級の降雪が丸1日程度以上続くと予想される場合に  
発表されます。

発表条件を満たす例として、死者・行方不明者231人、住宅全半壊1735棟の  
三八豪雪(福井・1963年)、死者行方不明者152人、全半壊466棟の五六豪雪  
(福井・1981年)が挙げられているように、甚大な被害が予想されます。



## 大雪に対応する呼びかけ

# 基本の呼びかけ - 大雪になったとき

大雪の際は、不要不急の外出を控えるよう呼びかけるのが基本ですが、やむを得ず外に出る場合、歩行中の転倒や転落、雪や氷の落下などに十分注意し、慎重に行動するよう呼びかけてください。

「雪国育ちだから大丈夫」「大雪には慣れている」などという油断や思い込みは捨て、安全確保を最優先するようしっかり伝えます。

さまざまな事故を想定し、命を守る言葉を届けてください。

吹雪の中を移動する際は、風で飛ばされてくるものに十分注意してください。

暴風雪など悪天候の時は、無理な除雪や雪下ろしなどは控えてください。

積雪や凍結で転倒しやすくなっている所があります。滑り止めのついた靴や滑りにくい冬用の靴を履き、足元に十分注意してください。

川や水路が雪で見えなくなっているかもしれません。転落するおそれがあるので、周辺に近づかないでください。

屋根や看板、標識などから雪や氷の塊が落ちてくる可能性があります。

頭上に注意し、軒下などに近づかないようにしましょう。



## 大雨に対応する呼びかけ

# 除雪・雪下ろしの呼びかけ - 大雪になったとき

大雪による事故で亡くなるケースの多くが、除雪・雪下ろしの作業中のものです。そのうち8割以上が、65歳以上の高齢者です。

屋根に大量の雪が積もった状況での雪下ろしや1人で行う作業は、大変危険です。特に高齢者には、無理な作業はせず、頑丈な建物や避難所への移動も検討するように促してください。除雪・雪下ろしには、命に直結する危険が潜んでいます。繰り返し強く呼びかけてください。

家の扉やふすまが開きにくくなったり、家がきしむような音がしたりした場合は、建物がひずんでいるおそれがあります。雪が弱まるタイミングを見計らい、安全を確認した上で、雪下ろしをしてください。

難しい場合は、近くの頑丈な建物への避難も検討してください。

屋根の雪下ろしは、1人ではなく複数で行いましょう。やむを得ず1人で行う場合は、家族や近所の人に声をかけ、時々様子を見てもらうようにしてください。

屋根の雪下ろしの際は、必ずヘルメットをかぶり、転落防止の安全帯を装着して命綱を結んでください。命綱は、屋根に設置された雪の滑り止めなどの器具に結びつけてください。そうしたものがなければ、近くの頑丈なものに巻きつけてください。

雪下ろしの際は、ハシゴから落下しないよう注意してください。ハシゴの足元は、しっかり固定することが大切です。凍った地面など滑りやすい場所には置かないでください。

屋根からせり出した雪と屋根の境目が分からず、踏み抜く事故も起きています。下から声をかけてもらうなど、境目を確かめながら作業してください。

万一転落して動けなくなった時のために、携帯電話や笛を持ってください。また、転落に備え、周囲にクッションとなる雪を残しておきましょう。



## 大雪に対応する呼びかけ

# ドライバー向けの呼びかけ - 大雪になったとき

大雪のたびに、雪道での事故や車の立往生が発生します。

特に車の立往生は、ひとたび発生するとあっという間に規模が拡大し、  
解消するまでに長時間かかることがあります。

社会的な影響だけではなく、一酸化炭素中毒やエコノミークラス症候群など  
命にかかわる危険もあります。

ドライバーには、大雪の際の運転の危険性やいざという時の対処などをしっかり  
呼びかけてください。

雪道で車が立往生した場合、ハザードランプをつけて  
周囲に知らせてください。

後続車がないかなど車外で周囲を確認する際は、  
安全を確かめ、落ち着いて行動してください。

雪道での立往生や待機の際は、一酸化炭素中毒を避けるため、  
エンジンを切って助けを待ちます。

寒さのためやむを得ずエンジンをつけておく場合、  
車のマフラーがふさがらないよう雪をどけ、  
車内の換気にも気をつけてください。

雪でマフラーがふさがると排気ガスが逆流し、  
一酸化炭素中毒の危険性が高まります。

一酸化炭素は匂いがせず気づきにくいいため、非常に危険です。

狭い車内で長時間同じ姿勢でいると、血流が悪くなり、「エコノミークラス症候群」の危険性が高まります。足の指を動かす、足首を回す、ふくらはぎをマッサージするなどしてください。水分の補給も大切です。体調が悪化したら、迷わず救助を要請してください。

歩道が雪で覆われると、車道を歩く人が出てきます。また、転んだ人が車道に倒れてくることもあります。車を運転中の人は速度を落とし、注意してください。